

学校施設の耐震診断結果の公表について

平成 20 年 6 月 18 日に地震防災対策特別措置法の改正があり、昭和 56 年以前に旧耐震基準で建築された学校の耐震診断実施の義務づけと診断結果の公表を義務づけています。

これを受けて、これまで耐震診断を実施した学校施設について、下表のとおり公表いたします。

なお、昭和 57 年以降建築の学校施設に関しては、新建築基準のため対象外としています。

学校名	建物名	構造	階数	建設年	延面積 (㎡)	耐震結果		耐震補強実施 年 度
						Is 値	CT・SD 値(q 値)	
北 溟 中学校	教室棟	RC	3	S45	2,574	0.32	0.31	
	管理特別教室棟 1	RC	3	S46	942	0.45	0.34	
	管理特別教室棟 2	RC	3	S46	1,641	0.31	0.30	
	体育館	S	1	S47	1,472	0.31	0.95	H23
	技術室棟	S	1	S47	871	0.81	2.48	
東 郷 中学校	普通教室棟	RC	3	S51	1,952	0.52	0.54	
	特別教室棟 1	RC	2	S36	545	0.49	0.31	
	特別教室棟 2	RC	2	S37	251	0.43	0.43	
	美術室棟	RC	1	S53	110	0.85	0.85	
	技術室棟	RC	1	S53	288	0.94	1.19	
	小体育館(格技場)	S	1	S41	204	0.45	1.37	

※RC：鉄筋コンクリート造、S：鉄骨造

※Is 値：地震に耐えられる能力としての建物の強さ、地震の力を受け流す能力としての建物の粘りの二つに建物の形状・経年劣化を考慮して、耐震診断基準による計算式により求められます。過去の地震記録の解析の結果、Is 値 0.6 以上ある建物は震度 6 強程度の大地震に対しても建物の倒壊や崩壊する危険性が低いと考えられますが、文部科学省は学校では 0.7 以上に補強するように求めています。

※CT・SD 値：建物にある程度の強度を確保する目的の建物の形状 (SD) や累積強度 (CT) の指標に関する判定基準です。Is 値が高くてもこの値が低い場合は安全としない目安です。CT・SD 値が 1.25 以上では Is 値が低くても安全とし、0.3 以下では Is 値が満足しても安全としていません。

※q 値：保有水平耐力に係る指標で、1.0 以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0 未満では危険性があるとされています。保有水平耐力とは、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さのことです。